

さんしょうの会

発行
特定非営利
活動法人
さんしょうの会

〒509-0807
高山市三福寺町
129
電話
0577-32
-8709

通常総会を開催

3年ぶりに対面で



総会で初めの挨拶をする熊崎理事長（正面）

出席26名、委任状17名

さんしょうの会は5月21日（日曜日）、総合福祉センターで2023年度通常会を開きました。出席26名、委任状17名で総会は成立しました。

5月21日 久しぶりに集まっていた総会を出席26名、委任状17名で開催しました。

初めに熊崎元康理事長より「『不易と流行』という言葉から、障がいがあっても、高山で楽しく生活していただきたい」ということになりました。と同時に時代の流れ、波に合わせて変わっていくかなければならない面もある。みんなで見えを出し合っていくように」という話がありました。

2022年度の事業報告や会計報告、2023年度の事業計画や予算書の提案がありました。

特浴槽設置の説明会

総会終了後に、「特浴槽設置についての説明会」があり、きららの家担当職員の今井田歩さんがビデオプロジェクトを使い報告しました。

「社会福祉法人清水基金の助成が決まり、年内に浴室の完成を目指している」と現状を報告し、自らも体験した特浴槽ミスト浴について「体内から体温を上げて新鮮な汗をかきます。古い汗と乳化した汗は、毛穴や皮膚の隙間に入り込んだミストと共に流れ落ち爽やかだった」と話しました。

「お湯に浸かる新湯方式とどちらが良いか意見を聞かせてほしい」と語りました。

熊崎理事長からは、「浴室助成の決定通知が



日帰り旅行の計画をしてほしいなど意見有り

参加者からは、「旅行に行っていないので、日帰り旅行を計画してほしい」「20周年企画として、きららに関わったボランティアさんと呼んで、交流会をしたい。」という意見がだされました。

来賓として参加くださった、石腰市福祉部長、志水市社会福祉部長代理、沼津市議会福祉文教委員

長、川上県会議員、榎隆市議より、それぞれあいさつをいただきました。

寄稿

きららハウス20周年に思う

土岐邦彦さん

1996年、岐阜大学に地域科学部という新しい学部が生まれ、私は心理学を担当する教員として赴任しました。学生たちには学びのフィールド（ゼミ活動の場）を探していた私にとって、「さんしょうの会」に出会えたことはとても幸運なことだったと思います。

「さんしょうの会」には持続的なエネルギーがあるということでした。親の会の活動として、たとえば「作業所設立」などの目標を掲げ、それに向け

て力を合わせていくことはよくあることですが、いざ目標が達成されたならば、ちょっとパワーダウンしてしまうこともあると思います。ところが「さんしょうの会」は、もちろんきららハウスの設立や発展を大きな目標としつつも、それだけではなく飛騨高山という地

域を発達保障の砦にするべく、地域にある諸課題をしっかりと見据え、しかもブレないところがすごいといつも思ってきました。

山での出会いがもたらしてくれたものは、いつまでも彼らの心と身体に沁みついていくだろうと確信しています。ありがとうございます。



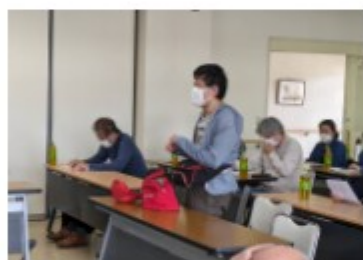
交流会で挨拶する土岐先生

土岐ゼミの活動はきららハウスの20年にわたるりと重なります。きらら

私は県内外の親の会など障害者関連の団体とかかわる機会が多くありますが、そこでいつも感じていたのは「さんしょうの会」の独自性です。

独自性のひとつ。それはお父さんたちの旺盛な活動ぶりです。私を知る多くの親の会は、お母さん方が中心でお父さんの姿はほとんど見かけるところがありません。ところが「さんしょうの会」だけはお父さんたちの顔・声・姿が常にそこにありました。

独自性のふたつ目は



総会で発言する荒川さん

荒川鉄矢さんの巻

20周年を振り返ると、さんしょうの会のキャンペーンファイヤーをしたり、

ポートに乗ったり、パーベキューをしたりして、土岐ゼミの学生との関わりがあり、いろいろ話せて楽しかったです。2019年に開所したきららの家の基金活動も学生さんたちとできてよかった。でも、きららの家を学生さんたちに見てもらえなかったことが残念でした。

きららの家にある柏木工制作の椅子が、ひじ掛けが広くお気に入りだったので、そこに飲み物などをおけるのではと思

作品も作っている。他のパン屋さんを見学して、パン作りをしたい。菊の仕事もまたやりたいし、他の企業見学をして、仕事内容を増やしたい。工賃を増やしたい。あとは、みんな体力が落ちていくので、体力づくりかな。

20周年企画！仲間へのインタビュー①